

研究計画書

1. 研究課題 小中学生向け「データヘルス授業」におけるアンケート調査

2. 研究の概要

2・1 目的

従来から行われてきた生活習慣病予防対策は、主に成人を対象としたものであるが、親のおやつの与え方が成人後の過体重に影響することが示されている¹など、学童期は生涯を通じた健康づくりの基礎となる重要な時期である。また、児童・生徒期に保健についての学習内容が多いほど、成長後、生活習慣病への予防意識が高く望ましい生活習慣が身についているという先行研究²もあり、早期からの予防教育は成人後の健康増進の基盤になると考えられる。

学童期における生活習慣病予防教育は、学習指導要領に基づき保健体育の一部として行われているが、本研究では、外部の専門家講師により、学習指導要領の内容に加え、データに基づく生涯の身体の変遷や地域の健康状況に応じた授業（データヘルス授業）を行う。

本授業は、児童生徒に自身と家族の健康に関心を持ってもらい、主体的な学びと積極的に行動する態度を育てることを目的とする。また、学習を通じて児童生徒の創造性が引き出されるよう教材を工夫し、児童生徒が必要な知識を身につけ生涯にわたって健康な生活を送ることができるよう支援する取り組みを行う。

このような背景のもと、アンケート調査では、授業を通じた児童生徒の健康に対する意識・行動変容や、授業で学んだ知識が家族にも伝播し、児童生徒を起点に家族全体の生活習慣の改善につながる様子を捉えることを目的とする。

2・2 方法

1) 「データヘルス授業」の実施

①対象者

東京都東久留米市の小中学校のうち「データヘルス授業」の実施を希望した学校に在籍する小学校6年生、中学校1～3年生

②実施時期

2024年10月～2025年2月

1コマ（45分）の授業を各校にて実施。

③実施内容

小学校第5学年及び第6学年の体育（保健領域）の学習における「生活行動が主な要因となって起こる病気の予防」、中学校第1学年及び第2学年の保健体育（保健分野）の学習における「健康な生活と疾病予防」に関連した内容にて、授業を実施する。

2) アンケート調査の実施

①対象者

「データヘルス授業」を受講した児童生徒

②実施時期

「データヘルス授業」終了後、1週間経過した時期に実施。

③実施方法

- ・アンケート回答用のウェブサイトは Googleform を用いて構築する。
- ・「データヘルス授業」で配布するワークシートに本ウェブサイトの接続先 URL および QR コードを記載する。
- ・児童生徒は授業後にワークシートを使って1週間の取り組みを行い、情報端末（タブレットやスマートフォン、PC）を通じて本ウェブサイトへアクセスし、アンケートに回答する。
- ・アンケートへの回答は任意。

④調査内容

- ・基本属性（学校名／性別／学年）
- ・普段の生活習慣で気を付けていること
- ・「データヘルス授業」について（理解できたか／印象に残ったこと）
- ・「データヘルス授業」後の変化（自分の生活習慣の変化／家族への伝達／家族の生活習慣の変化）
- ・ワークシートへの取組（設定した目標／達成度／期間設定の適否／感想）
- ・普段の生活習慣で見直したいこと

¹ 佐田みずき,山岸良匡,西連地利己,他. 児童期におけるおやつの与え方が, 22歳時の体格に与える影響:IBACHIL 研究. 日本循環器病予防学会誌 2017; 52: 3

² 高尾憲司,藤岡秀樹. 大学生の疾病予防に対する意識, 行動と児童・生徒期の保健学習との関連 - 生活習慣病の予防に着目して. 小児保健研究 2014; 73: 6

- ・健康づくりや疾病予防等で学習したいこと

3) 分析

アンケートの結果をもとに、回答情報を分析する。
基本属性を軸としたクロス集計を行うとともに、自由回答部分についても定性的な分析を行う。

実施・収集期間	部局長承認後 5 年間	研究期間	部局長承認後 5 年間
<p>2・3 対象及び資料等</p> <p>1) 対象（研究参加者の属性と人数等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都東久留米市の小中学校のうち「データヘルス授業」の実施を希望した学校および学年に在籍する児童生徒。 ・2024 年度の実施校は、小学校 1 校（6 年生）および中学校 4 校（1 年生および 3 年生）、合計 16 クラスとなった。（児童生徒数；約 640 名） ・2024 年度実施校；第一小学校／久留米中学校／東中学校／西中学校／大門中学校 <p>2) 試料・情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無記名自記式ウェブアンケートの回答情報。 ・情報量は回答率による。対象となる児童生徒（約640名）のうち、回答率が30%とした場合、192名の有効な回答情報が得られる予定。 ・情報の分析結果は、「データヘルス授業」を実施した各校および東久留米市教育委員会にフィードバックする。 			
<p>2・4 研究参加者の実体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査時期は、2024 年 10 月～2025 年 2 月。 ・児童生徒は、「データヘルス授業」を受講し、授業終了の約 1 週間後に、無記名自記式ウェブアンケートに回答する。 ・回答にあたっては、情報端末（タブレットやスマートフォン、PC）を通じてアンケートが掲載されたウェブサイトアクセスする。情報端末は、児童生徒自身や家庭で保有するものを利用する。 ・アンケートの回答画面を読み、調査に同意した場合に質問に回答する。 ・回答の所要時間は一人あたり最大 15 分を予定。 			
<p>3. 研究を実施する施設とその役割</p> <p>1) 該当する施設名とその役割（別途添付可）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①インフォームド・コンセントを受ける施設；「データヘルス授業」を実施する小中学校 ②資料等を収集する施設；東京大学未来ビジョン研究センター データヘルス研究ユニット ③資料等を匿名化する施設；無記名のため匿名化は不要 ④資料等を解析する施設；東京大学未来ビジョン研究センター データヘルス研究ユニット ⑤資料等を保存する施設；東京大学未来ビジョン研究センター データヘルス研究ユニット <p>2)（該当する場合）学外施設での対応とその状況（別途添付可）</p> <p>本アンケート調査の実施にあたっては、その趣旨および実施方法等について、予め東久留米市および東久留米市教育委員会の同意を得ている。</p> <p>保護者向けの資料については、参加学校への説明会でも特に希望がなかったので現在のところ用意していない。</p> <p>東久留米市教育委員会および「データヘルス授業」を実施した小中学校； 個々の回答結果が分からないようにした全体の分析結果のみを共有する。</p>			

4. 研究における倫理的配慮

4・1 インフォームド・コンセント

1) 実施方法

・ウェブサイトの画面上、アンケートの冒頭部分に「研究への利用について同意する」確認欄を設け、チェックにより同意を得る。また、回答は任意であることを明記する。

2) 特に倫理的な配慮を必要とする研究参加者への配慮の有無と対応策 → あり (内容を記入) なし

・回答者は未成年なので、小中学校の協力を得て事前にアンケート調査の内容、記載方法の適切性について確認、修正する。

・小中学校の学級担任から「データヘルス授業」およびアンケート調査の実施について保護者に事前連絡を行い同意を得る。

・児童生徒本人には、「データヘルス授業」実施時およびアンケートの冒頭部分で研究実施について理解できるようわかりやすい表現で説明を行い、インフォームド・コンセントを得る。

4・2 個人情報保護

1) 本学における個人情報の有無とその種類 → あり なし

・無記名式で実施する。

・回答者属性に関する調査項目に、氏名・生年月日など特定の個人を識別できる情報は無い。

2) 本学における個人情報保護の方法

該当しない

3) 研究終了後の個人情報の取扱 (試料・情報に個人情報が含まれる場合は除く)

該当しない

4・3 試料・情報の取扱

・アンケート調査結果の電子データは、研究終了後、10年間保存し破棄する。

・電子データは、研究者のみがアクセスできるようパスワードが設定されたクラウド上で共有し解析を行う。

5. 安全の確保

1) 研究によって研究参加者に生じうる危険や不快等

・児童生徒には授業を通じてアンケートが掲載されたウェブサイトの情報が配布されるため、回答が任意であったとしても、回答することが義務だと受け取られるリスクがある。

・学級担任より、アンケートへの回答を強要されるリスクがある。

2) 危険や不快等への対応策

・児童生徒に対しては、授業実施時のアンケート調査の説明およびアンケート画面の冒頭部分で、調査への参加は任意であることを説明する。

・調査に参加する各校に対してアンケートの回答は任意であることを説明し、児童生徒に回答を強要しないよう伝える。

6. 備考

研究参加者への謝礼の有無： なし あり

研究経費の内訳：データヘルス研究ユニット寄付金

企業等からの資金・装置等の供与の有無： なし あり

(東京海上日動火災保険株式会社、住友生命保険相互会社より寄附金の供与)

利益相反の有無： なし あり

その他：